

馬高・三十稻場遺跡

—史跡「馬高・三十稻場遺跡」環境整備事業に伴う発掘調査概報—

2001

長岡市教育委員会

例　　言

1. 本報告書は、新潟県長岡市の馬高・三十稻場遺跡環境整備事業に伴う発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 発掘調査の対象は、史跡馬高・三十稻場遺跡（長岡市関原町1丁目字中原・遠藤）である。
3. 発掘調査は長岡市教育委員会が主体となり、国の緊急地域雇用特別交付金を得て実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査主体	長岡市教育委員会（教育長：笠輪春彦）
調査総括	駒形敏朗（科学博物館副主幹）
調査担当	小熊博史（科学博物館主任）
調査員	島居美栄（科学博物館学芸員）
事務局	科学博物館（館長：渡辺　央）
4. 発掘調査は平成12年6月7日から11月15日の期間を行った。
5. 発掘調査の出土遺物・調査記録は長岡市立科学博物館で一括して保管している。
6. 遺物の注記は、馬高遺跡分は「UD」、三十稻場遺跡分は「三十」とした。
7. 本報告書の執筆・編集は小熊が担当した。

目　　次

1	遺跡及び発掘調査の概要.....	1
2	三十稻場遺跡の調査.....	1
3	馬高遺跡の調査.....	2

図版目次

図1. 馬高・三十稻場遺跡の全景.....	3
図2. 馬高・三十稻場遺跡の位置及び発掘区.....	3
図3. 三十稻場遺跡の発掘調査区（表1. 三十稻場遺跡検出遺構一覧）.....	4
図4. 馬高遺跡の発掘調査区（表2. 馬高遺跡検出遺構一覧）.....	5
図5. 三十稻場遺跡の発掘調査.....	6
図6. 三十稻場遺跡の遺構検出状況(1).....	7
図7. 三十稻場遺跡の遺構検出状況(2).....	8
図8. 馬高遺跡の発掘調査.....	9
図9. 馬高遺跡の遺構検出状況(1).....	10
図10. 馬高遺跡の遺構検出状況(2).....	11
図11. 馬高遺跡の遺物出土状況(1).....	12
図12. 馬高遺跡の遺物出土状況(2).....	13

(表紙写真：馬高遺跡の全景、裏表紙：報告書抄録)

1 遺跡及び発掘調査の概要（図1・2）

馬高・三十稻場遺跡（長岡市関原町1丁目字中原・遠藤）は、信濃川左岸の段丘面（関原面）上に立地する縄文時代の大規模な集落跡である。「遠藤沢」と呼ばれる小規模な沢を挟んで、東側に中期の馬高遺跡、西側に後期の三十稻場遺跡が位置している。標高は約60～65mをはかる。特に馬高遺跡は「火焔土器」発祥の地として全国的に著名であり、昭和54年に隣接する三十稻場遺跡とともに国の史跡に指定されている。その指定面積は約45,000m²である。また、馬高遺跡出土の「火焔土器」は平成2年に国重要文化財の指定を受けている。

長岡市教育委員会（主管：科学博物館）では、馬高・三十稻場遺跡環境整備事業の一環として、平成11年度から史跡整備に向けた基礎資料を得るために発掘調査を開始した。平成12年度には、6月～11月にかけて発掘調査を実施した。史跡範囲のうち、三十稻場遺跡部分では全域の様相を把握するための試掘確認調査を、また馬高遺跡では平成11年度の調査成果に基づき、全城の試掘確認作業と集落中心部の造構発掘作業を並行して行う計画で進めることにした。6月7日から三十稻場遺跡部分の発掘作業を開始して7月末に終了、7月下旬からは馬高遺跡部分の発掘作業にも着手し、11月15日にすべての調査業務を完了した。

2 三十稻場遺跡の調査（表1、図3・5～7）

（1）調査区の概要 史跡指定範囲の全城を対象に、基本形4×10mの発掘区を36か所設定した（計約1,500m²）。その発掘区について、人力で遺物包含層を発掘し、遺構や遺物の有無を確認した。なお、一部の発掘区については、遺構の広がりを把握するため、部分的な拡張を行っている。

基本的な層序は、I層（表土）、II層（褐色土、遺物を多量に含む）、II層（黒褐色土、遺物を少量含む）、III層（褐色～黄褐色土、漸移層）、IV層（黄褐色土）である。

（2）確認された遺構 縄文時代中・後期及び平安時代の遺構が確認された。

縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡、炉跡（石組炉、地床炉）、土坑（貯藏穴）、ピット（柱穴等）、掘立柱建物柱穴、埋設土器、大型土坑状遺構などがある。その検出状況から、遺構群は概ね東側の沢に向かって開いた馬蹄形状に展開する様相が推測される。

全体が検出された竪穴住居跡（32T）は、直径約3.2mの円形で地床炉をもち、床面は著しく硬化していた。主柱は5本で、三十稻場式段階に構築されたとみられる。遺構のなかで特に注目されるのは、遺跡南側の7Tで確認された「大型土坑状遺構」である。その平面形は不整な橢円形状で、長軸6m・短軸4m・深さ2.6m以上の規模をもつ。その形状や堆積状況などから、土器づくり用の粘土を採掘した土坑（粘土採掘坑）の可能性が考えられる。なお、遺跡の北東部には多量の土器片が堆積する地点（29T付近）があり、遺物廃棄場とみられる。

平安時代の遺構には、竪穴住居跡1基、土坑、ピット、溝状遺構などがある。17Tで検出された竪穴住居跡は平面不整橢円形状で、長軸4.5m・短軸3.3mの規模をもち、覆土には多量の焼土及び炭化物が含まれていた。これらの遺構は14Tと17Tにはば限られており、遺物の分布と合わせて、遺跡東側の沢沿いに小規模な集落跡が広がっていたことを示している。

（3）出土した遺物 総数はコンテナで約150箱を数える。縄文土器は破片総数で約10万点（約1,300kg）に及ぶ。遺跡北半の地点では縄文時代中期後半～後期初頭・前葉の土器が、また南半には後期前葉～中葉の土器が分布する傾向を窺うことができる。一方、石器類は総計798点に上る。石鎚（66）、石槍（2）、石錐（6）、石匙（1）、打製石斧（22）、磨製石斧（60）、板状石器（22）、石錐（199）、砥石（58）、石皿・

磨石類（354）などがあり、特に石鎌と石錐が多い。また、土製品は土偶（16）、土製円板（81）など、石製品は玉類（3）や石棒・石劍（7）が出土している。

平安時代の遺物としては、須恵器片136点、土師器片465点があり、沢沿いの14T・17T及びその周辺から発見された。須恵器には壺・甕・蓋類など、土師器には壺類の器種がみられ、その形態的特徴から9世紀後半に位置づけられる。

3 馬高遺跡の調査（表2、図4・8～13）

（1）調査区の概要 史跡指定範囲を縱断・横断する幅約4mの発掘溝を南北方向2ライン・東西方向1ラインで設定（約1,400m²）し、人力で包含層を発掘して遺物や遺構の有無を確認した。また、遺跡の中央部分（約600m²）を対象に、遺構の検出と精査を目的とした発掘を行った。

基本的な層序は、I層（表土）、II層（褐色土、遺物を多量に包含）、II層（黒褐色土、遺物を少量包含）、III層（褐色～黄褐色土、漸移層）、IV層（黄褐色土）であるが、遺跡の中央部を除いて、全般的に堆積層厚は薄く、遺物包含層の残存は良好でない。

（2）確認された遺構 中央区（V F・G区）では、堅穴住居跡及び窓跡23基が検出された。このうち、住居の平面形態が判明したものは6基で、長方形4基、楕円形2基である。V G区の8号住居跡は長方形状で約8×4m、また同区の9号住居跡は楕円形状で約7×6mの規模を示す。窓跡の内訳は、地床窓12基、地床炉+石囲炉2基、土器片敷を伴う地床炉1基、石窓が8基である。その他、集石遺構4か所、多数のピットが認められた。地床炉は焼土が住居の長軸方向に細長く延びる特徴的なものである。地山上面で検出される地床炉に対して、石囲炉の多くは黒色土中で検出されており、層位的な新旧関係を示していた。

また、南北Iラインでは、円形石囲炉をもつ堅穴住居跡1基（V G区）、掘立柱柱穴（V E区）、貯蔵穴や墓坑とみられる土坑（V E～C区）、複式炉（V B区）などが確認された。墓坑のうち1基からは、滑石製・瑪瑙製・琥珀製の大珠各1点の計3点が出土し、その周辺から発見された縦穿孔の硬玉製大珠1点とともに注目される。さらに南北IIラインでは、楕円形の堅穴住居跡2基と地床窓5基（VII I区）、埋設土器2基（VII H～I区）、貯蔵穴とみられる土坑（VII E～F区）などが認められた。堅穴住居跡2基は焼失住居とみられ、その覆土には多量の炭化材や焼土が含まれていた。なお、東西ラインでは遺構はほとんど認められなかつた。

これらの遺構群の分布は、遺跡北部～中央部で大規模な馬蹄形状、遺跡南部では小規模な馬蹄形状の広がりを示し、いずれも東側に開いた集落形態が推測される。

（3）出土した遺物 総数はコンテナで約150箱を数え、火焰型土器や王冠型土器を含む中期全般にわたる土器が多数出土した。遺跡北部～中央部は中期前葉～中葉（大木7b～8b式段階）、遺跡南部では中期後葉の土器（大木9～10式段階）が主体的である。その破片総数は約8万点（約1,400kg）に及ぶ。石器類は総計653点で、石鎌（35）、石槍（4）、石錐（2）、石匙（4）、打製石斧（155）、磨製石斧（72）、板状石器（3）、砥石（68）、石皿・磨石類（304）などがある。また、土製品は土偶（14）、三角形土版（37）、土製耳飾（13）など、石製品は玉類（4）や石棒（6）が出土した。その他、多数のコナラやクリ・クルミなどの炭化種子も発見されている。



図1. 馬高・三十稻場遺跡の全景（北側から撮影）

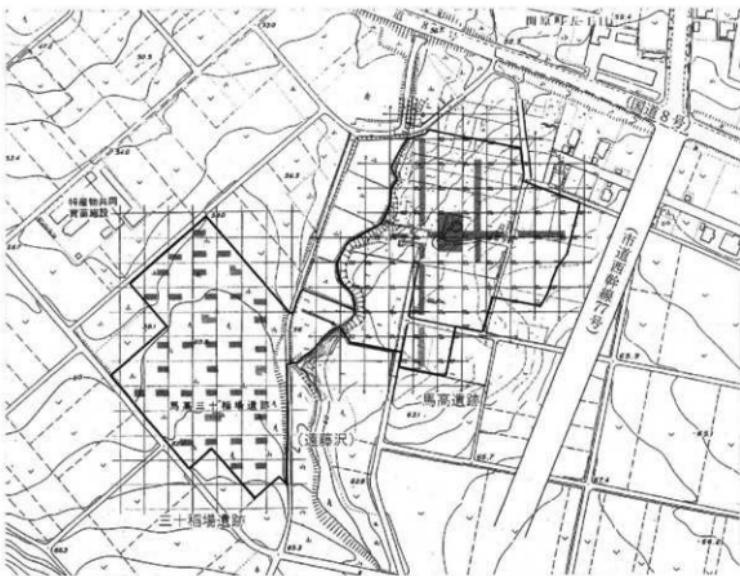


図2. 馬高・三十稻場遺跡の位置及び発掘区（1/4,000地形図）

表1. 三十稻場遺跡検出遺構一覧

トレンチ	深度(cm)	遺構(推定基数)	トレンチ	深度(cm)	遺構(推定基数)
1T	42~49	土坑(2), ピット(9), 風倒木痕(1)	20T	31~34	土坑(2)
2T	19~37	土坑(1), ピット(4), 溝状遺構(1)	21T	24~31	土坑(2), ピット(8)
3T	24~63	遺構なし	22T	27~35	ピット(20), 溝状遺構(1)
4T	31~63	土坑(1), ピット(30), Hピット(2)	23T	36~48	土器埋設炉(1), 焼土(2), 墓設器(1), 土坑(4), ピット(多數), 集石(2) *貼床状
5T	42~44	土坑(2), ピット(20), 溝状遺構(1)	24T	30~60	土坑(4), ピット(10)
6T	19~24	土坑(1), ピット(15), Hピット(4)	25T	20~115	ピット(), 集石?
7T	30~40	大形土坑(1), ピット(多數)	26T	41~66	ピット(10)
8T	33~44	土坑(3), ピット(5), Hピット(1), 方形遺構(1)	27T	57~68	焼土(1), 混凝土器(1), 土坑(5), ピット(多數)
9T	28~57	土坑(1), ピット(5)	28T	30~52	土坑(3), ピット(25)
10T	31~47	ピット(20)	29T	31~145	土坑(1), ピット(15)
11T	34~40	土坑(3), ピット(15)	30T	30~37	ピット(1)
12T	12~45	施土(1), 土坑(3), ピット(25), 溝状遺構(2), 集石(?)	31T	60~81	ピット(6), 風倒木痕(2)
13T	26~35	土坑(4), ピット(10)	32T	27~36	堅穴住居(1=地床炉), 堅穴住居(2), 土器埋設炉(1), 焼土(4), 土坑・ピット(多數)
14T	20~32	土坑(3), ピット(3), 溝状遺構(1)	33T	35~39	ピット(6)
15T	23~24	土器埋設炉(1), ピット(40)	34T	26~37	堅穴住居(1=地床炉, 周溝), 土坑(2), ピット(10)
16T	25~36	焼土(1), 土坑(8), ピット(10), 溝状遺構(1)	35T	33~45	堅穴住居(3=地床炉), 堅穴住居(1), 土坑(1), ピット(20)
17T	18~31	堅穴住居(1), 土坑(5), ピット(13), 溝状遺構(3)	36T	28~49	堅穴住居(1=地床炉, 周溝), ピット(7)
18T	21~38	地米炉(1), 土坑(4), ピット(30)			
19T	41~52	ピット(8), 集石(?)			

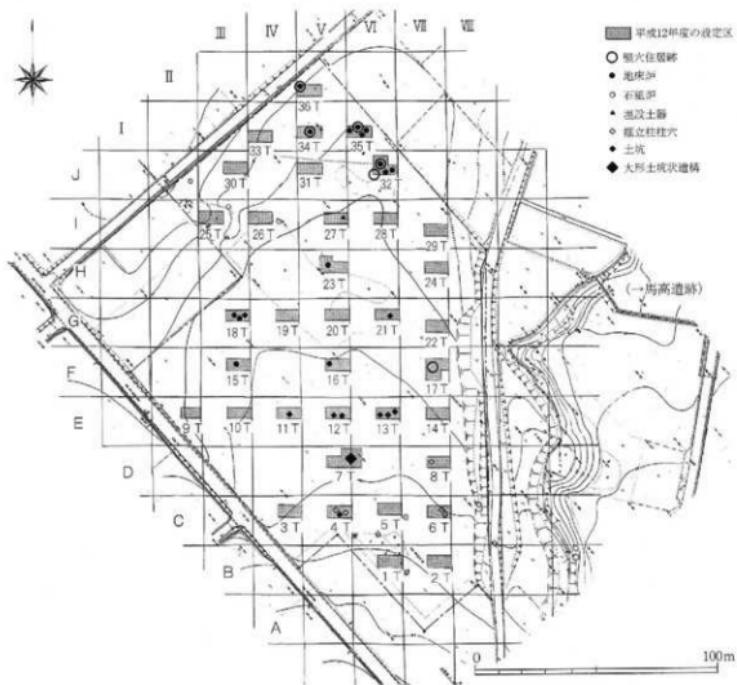


図3. 三十稻場遺跡の発掘調査区 (1/2,000地形図)

表2. 馬高遺跡検出遺構一覧

トレンチ	大区	深度(cm)	遺構(推定基数)	トレンチ	大区	深度(cm)	遺構(推定基数)
V A	南北Ⅰ	17~29	埋設土器(1), 土坑(1), ピット(8)	南北Ⅱ	Ⅷ I	20~30	堅穴住居(2=塙土, 塵陶), 土器埋設地床炉(1), 烧土(多数), 埋設土器(2), 土坑・ピット(多数)
V B		17~23	土器埋設炉(1), 烧式炉(1), 土坑(2), ピット(多数)				
V C		18~36	土坑(2), ピット(15)		Ⅷ J	10~27	ピット(10)
V D		21~44	土坑(5)				
V E		36~53	土坑・ピット(多数)		東西	Ⅸ G	19~44
V F		36~48	溝状遺構(2), ピット(4)				なし
V G	南北Ⅱ	22~45	石組炉(1), 溝状遺構(1), 土坑(1), ピット(7)	東西	Ⅹ G	30~51	なし, 刷平痕
V H		17~36	ピット(3), 刷平痕				なし, 刷平痕
V I		24~91	なし				なし
V J		24~97	なし	中央	Ⅸ G	40~50	堅穴住居(1=石組炉1), 土坑・ピット(多数)
V K		36~68	燒土(3), 黑土落込(1), 溝状遺構(2), 土坑・ピット(多数)				堅穴住居(1=地床炉7, 地床炉+石組炉2, 石組炉5), 土坑・ピット(多数)
V L		17~31	土坑・ピット(多数)		Ⅹ G	40~65	堅穴住居(7=地床炉5, 石組炉2), 土器敷遺構(1), 集石遺構(4), 土坑・ピット(多数)
V M		17~23	燒土(4), 黑土落込(1), 埋設土器(1), 土坑・ピット(多数)				堅穴住居(7=地床炉5, 石組炉2), 土器敷遺構(1), 集石遺構(4), 土坑・ピット(多数)

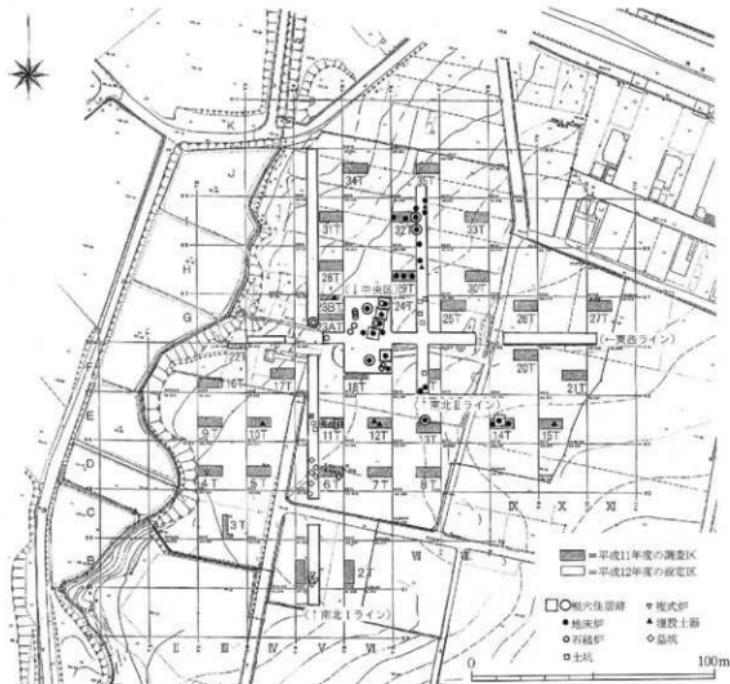


図4. 馬高遺跡の発掘調査区 (1/2,000地形図)



①試掘トレンチ設定期況
(遺跡近景、南側から)



②6T遺構検出状況
(掘立柱柱穴他、東側から)



③18T一括土器出土状況
(土坑上面、南側から)

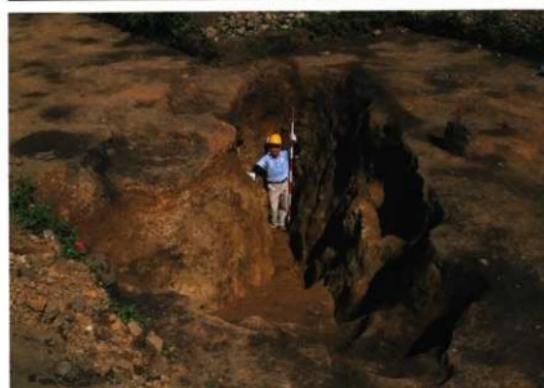
図5. 三十稻場遺跡の発掘調査



① 7 T 大形土坑状遺構検出状況
(南東側から)



② 7 T 大形土坑状遺構発掘状況
(覆土上部、東側から)



③ 7 T 大形土坑状遺構完形状況
(東側から)

図 6. 三十稻場遺跡の遺構検出状況(1)



①32T整穴住居跡検出状況
(西側から)



②32T整穴住居跡完掘状況
(中央に地床が、西側から)



③17T整穴住居跡発掘状況
(床面の精査、西側から)

図7. 三十稻場遺跡の遺構検出状況(2)



①遺跡遠景
(南東側から)



②中央区の発掘状況
(南西側から)



③南北Ⅱラインの発掘状況
(南側から)

図8. 馬高遺跡の発掘調査



①中央区8号住居完掘状況
(VIG区、東側から)



②中央区9号住居完掘状況
(VIG区、東側から)



③中央区北側完掘状況
(VIG区、南東側から)

図9. 馬高遺跡の遺構検出状況(1)



①石組炉及び一括土器出土状況
(中央区VI F 区、北側から)



②石組炉検出状況
(中央区VI F 区、北側から)



③複式炉検出状況
(南北IラインV B 区、東側
から)

図10. 馬高遺跡の遺構検出状況[2]



①火焰型土器出土状況
(中央区VIF区、南側から)



②王冠型土器出土状況
(中央区VIF区、北側から)

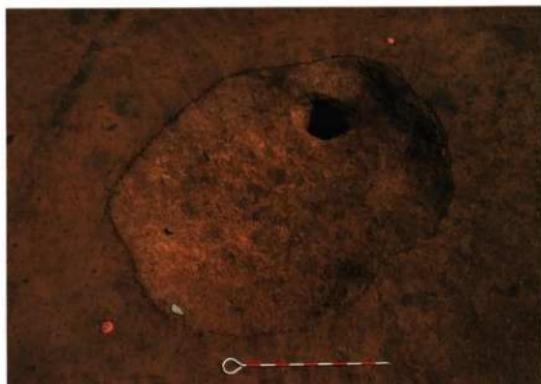


③炭化種子出土状況
(中央区VIG区、北側から)

図11. 馬高遺跡の遺物出土状況(1)



①硬玉製大珠出土状況
(南北IラインVD区、南側
から)



②墓坑及び大珠等検出状況
(南北IラインVD区P1、
西側から)



③墓坑及び埋納土器検出状況
(南北IラインVD区P2、
北東側から)

図12. 馬高遺跡の遺物出土状況(2)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	うまたか・さんじゅういなばいせき							
書名	馬高・三十稻場遺跡							
副書名	-史跡「馬高・三十稻場遺跡」環境整備事業に伴う発掘調査概報-							
巻次数								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小熊博史							
編集機関	長岡市教育委員会(科学博物館)							
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2番地1							
発行年月日	2001年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
馬高遺跡 三十稻場遺跡	新潟県長岡市 柳原町1丁目 字中原2995他	15202	18 33	37° 26' 35"	138° 46' 22"	20000607 ~1115	3,500	史跡の環 境整備事 業に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
馬高遺跡	遺物包含地 (集落跡)	縄文時代 中期	堅穴住居跡 炉跡	6棟 約30基	縄文土器 コンテナ134箱 土製品・石器類 21箱	・大規模な環状集落 ・住居群・墓域の検出 ・火焔型土器や大珠 類の出土		
三十稻場遺跡	遺物包含地 (集落跡)	縄文時代 後期 平安時代	堅穴住居跡 大型土坑 堅穴住居跡	5棟 1基 1棟	縄文土器等コンテナ127箱 土製品・石器類 18箱	・大規模な環状集落 ・粘土探掘坑とみられ る大型土坑の検出		

馬高・三十稻場遺跡-史跡「馬高・三十稻場遺跡」環境整備事業に伴う発掘調査概報-

平成13年3月30日印刷・発行

発行：長岡市教育委員会（科学博物館：新潟県長岡市柳原町2番地1）

印刷：吉原印刷株式会社（新潟県長岡市南陽2丁目949-13）